



# ピアノニストからみた室内楽入門

## 第2回 アンサンブルにおける音量バランス②

深井尚子 ● ピアニスト

ピアノは、確かに大きな楽器です。

音量も2000人収容のホールで独奏しても遜色なく音を響かせることができます。グラランドピアノは、蓋を全開にした状態がもつとも楽器を響かせ豊かに鳴らすことができるように作られています。

では、弦楽器はどうでしょうか？弦楽器も大ホールでコンチェルトなどを弾きますよね。このように考えますと、アンサンブルの時の音量バランスは、ピアノニストだけの問題ではないことがわかります。ピアノは、昔フォルテピアノなどと呼ばれ、*p*も*f*も出せる楽器ということで注目を集めました。ですから、ピアノニストが本当にピアノという楽器を正しく鳴らし、美しく響かせる技術を持つていれば、アンサンブルをする時も「ピアノの蓋を閉めないで」「左のペダルも踏まないで」どんな音量にも

対応できます。ピアノの蓋を閉めてしまつと、ピアノは音の出所を失い、楽器のただけで鳴ってしまいます。

左のペダルを踏むことは、音量が小さくなるのではなく、くすんだ響きになるだけです。印象派などでは脚などの表示があると、甘く遠くから聴こえてくるような音色を出すために、左のペダルを踏むことがあります。そのような効果をねらつて左ペダルを踏む場合と、アンサンブルの時に*f*の表示があるにもかかわらず、ピアノの音が大きすぎるという理由から左ペダルを踏むことは、基本的にまったく別な次元の行為と言わざるを得ません。

ピアノの音量が大き過ぎると言われる時は、書かれているたくさんの音符をすべて均等に出してしまつたり、和音（左右で8つの音を鳴らす場合もありますよね）を弾く時に8

本の指を均等に弾いてしまつた時なのです。

具体的な例を挙げてみましょう。譜例はメンデルスゾーンのピアノ三重奏曲第1番です。この曲は、メンデルスゾーン独特の泣かせるメロディーがふんだんに盛り込まれた、



とても人気の高い楽曲です。弦楽器は白っぽい音符が多く、とうとうとメロディーを奏でている間、ピアノは3連符でめまぐるしく上下しています。さらにクレッシェンドして、あつという間に*ff*に向かつていく中、左手では4和音を弾きます。この部分をハノンの指練習をするように均等に弾いてしまうと、弦楽器のメロディー部分を台無しにしてしまいます。ピアノパートが技術的に難しいと夢中になるあまり、本来、弦楽器がその特徴を生かして流れるようなメロディーを歌っている時は、かなり気をつけなければなりません。だからといって、ピアノの蓋を閉めたり左ペダルを踏むと、音楽全体がくすんでしまい、たとえ弦楽器が素晴らしいメロディーを奏でて、聴衆にその楽曲の本来のすばらしさを伝えることができないのです。



Shoko Fukai

ウィーン市立音楽院修了。ウィーン古典派をレパートリーを中心に演奏活動中。特にベートーヴェンを深く研究しており、学術論文多数。ベートーヴェンピアノ・ソナタのCD第1集、第2集は好評発売中。色とりどりの小品集ハイドン、ベートーヴェン（ヤマハミュージックメディア）の校訂解説の楽譜も好評。現在、北海道教育大学音楽コース准教授。